

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年中は、デフレ不況等により会議所、会員も悪戦苦闘の連続でありましたが女性会のグリーンカーテンプロジェクトは全国優秀賞を頂き、青年部は新商品新企画の開発を積極的に行動して下さい、無事大過なく過ごす事が出来ました事、皆様に改めてご報告を申し上げ、心から御礼を申上げる次第であります。ありがとうございました。

また新年恒例となりました、君津商工会議所の賀詞交歓会では、時節柄、公私共に大変お忙しい折でございますが、鈴木市長さんを始め、第 46 回衆議院選挙において大勝され、自民党幹事長代行と言う要職につかれ、極めて多忙の中、浜田靖一先生にもお越し頂きました。また、本市初めて県議会議長に就任された川名先生、県議の石井宏子先生、市議会からは小林議長、磯貝副議長そして市議会の諸先生、武次副市長さん、産業経済界からは、藤野君津製鐵所長さん、JA きみつ齊藤組合長さん、木更津商工会議所荒井会頭さん等、各界各層の方々が大勢参加頂きました事は、極めて賀詞交歓会にふさわしい、にぎやかな、華やかな会となりました。主催者と致しまして、誠にありがたく、厚く御礼を申し上げます。ご参加頂きました皆様ありがとうございました。

昨年行われました衆議院選挙の結果については各界、各党それぞれの思いはあるかと存じますが、安倍政権誕生によって日本経済、世界の日本観も大きく反応されて、待望久しかった株価は高騰し、円高から大きく円安へと大きな変化好転をいたして居ります。

ここ数日市内の年始ごあいさつ廻りをさせて頂き、皆さん方のお考えを集約させて頂きますと、「この日本経済の復活の兆しは、この夏に行われる参議院選挙によって、長期安定政権が生まれることが鍵ですね」という考え方が一致された意見であり願望でありました。

会議所は政治に深く関与してはいけないとされて居りますが、今日の日本の経済、荒廃する地方経済の生残りを考えれば、政官民が一体となり、かつての護送船団を組むべき時だと思えます。

私達の住むこの君津市は、首都圏 4 千万人の圏内にあつて少子高齢化による人口の大幅減少、その危機感がまだまだありますが、私は職務柄、絶えず全国を行脚致して、首都圏から離れた地方都市で思うことは、かつて限界集落への対策が問われましたが、今や限界地方小都市化が始まり、将来地方小都市の社会保障能力に不安感を持つ人々が大都市へ移住を始め、拍車をかけて居ります。このまま、推移するならば日本は 2030 年には人口 1 億人を割り 2300 年には人口 5 千万人となると言われて居ります。

しかし、日本民族はそう見捨たものではないと私は思っています。日本は世界最速で少子高齢化社会を迎えました。長期デフレ、原発問題も経験致して居ります。

日本民族はいつもこうした困難な課題を乗り越えて、新しい時代のモデルを考え出し、世界をリードして参りました。これからも日本は必ず復活すると思っています。

皆さん、病気を発見して治療医学にお金をかけるより、早期発見して病気にならない様、先見性を持って、これからのアクアライン、アウトレット、そして圏央道の完成後を考えて頂きたい。

立地条件、天の時をこの君津は迎えて居ります。

ただ、巨大流通業の進出によって大量の流入人口はグローバル資本主義社会にとって喜ぶべきではありませんが、今までこの地方の同じ分野で働いてきた人達、地方産業が共に発展、成長させる施策、方法が見つけられないままグローバル資本主義を是認するならば、地方都市はバランスを失い、秩序を崩壊されてしまう危険性が大有ります。

韓国の大統領選挙においても格差改善が大きな課題でありました。

これ以上この地域に大型店等を導入するならば、四市の特性を生かした里山資本主義と組み合わせ、住み分けた 30 万人以上の中核都市が受皿として必要であります。これは全国小都市の商店街をご覧になればよき証明であります。

日本の経済の 99.7%は中小零細企業で支えて居り、そこに働く市民の 70%は市民生活を支えて居りますことを是非ご記憶を頂き、本年は日本経済復活のチャンス年として、皆で共に助け合い、分ち合いながら、懸命に生残る努力をいたし、次の世代を託す多くの後継者に夢と希望を捨てさせない様、皆様方のご指導とお力を借りながら、更に一層の努力を致して参りますので、何分共のお願いを申し上げ、鈴木市長さんの志す、夢と誇りのあるまちづくりのためにも、皆様、お元気で、健康長寿であります様、祈念致しまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。